

17の目標から身近な課題を考える

7 エネルギーをみんなに
そしてクリーンに



【目標7 エネルギーをみんなに
そしてクリーンに】

具体的な目標(一部抜粋)

- ◇2030年までに、再生可能エネルギーの割合を大きく増やす。
- ◇2030年までに、再生可能エネルギー、エネルギー効率、石炭や石油を使う場合は環境にやさしい技術の研究を進める。

現在、私たちが使用しているエネルギーをつくる方法は、石油・石炭などの化石燃料が中心です。

しかし、化石燃料は、エネルギーをつくり出すときに二酸化炭素が発生し、地球温暖化の原因の一つになっているといわれています。そこで、太陽光・風力・地熱など二酸化炭素を排出しない再生可能エネルギーの割合を大きく増やしていこうというものです。

また、生産できるエネルギーの量は限られています。無駄に消費しているエネルギーを減らすことが大切です。

日本の発電電力量に占める
再生エネルギーの比率

18% (2019年度)

再生エネルギー発電設備容量

世界第6位 (2018年実績)

※資源エネルギー庁ホームページから引用

私たちにできること

節電を心掛ける

電気の無駄遣いをなくすことは、私たちが手軽にできることです。経済産業省資源エネルギー庁の2019年度最終エネルギー消費構成比の調査では、家庭部門が14.1%となっていますので、家庭で節電をすることは、無駄なエネルギーの消費を減らすことにつながります。

- 使っていない家電製品の電源プラグを抜く
 - 冷蔵庫にものを詰めすぎない
 - 照明をLEDに変更する
 - エアコンは適切な設定温度にする
 - テレビの明るさを調整する
- など

エネルギーを上手に使う

エネルギーを上手に使う工夫をすることも私たちにできることのひとつです。

例えば、出かける際もできるだけエネルギーを消費しない移動手段を使うことが、目標の達成につながります。近場の移動は、徒歩や自転車などのエネルギーを消費しないものへ切り替え、遠方への移動なら、エネルギー効率の良い公共交通機関を利用しましょう。



こんにちは 地域包括支援センター です！

地域包括支援センターのご紹介

問合せ
地域包括支援センター
☎ 32-0661

高齢者のみなさんが、住みなれたまちで安心して暮らしていくために必要な支援をする相談窓口です。

以下のような生活や介護に関するご相談に応じています。



総合相談

- 健康を維持するために運動をしたい
- 家に閉じこもり、周りとの交流がない
- 1人暮らしで、これからも生活できるか不安
- 高齢者が入居できる施設を知りたい
- 外出している姿を見かけなくなった高齢者がいる
- 介護サービスを利用したいけど、どうすればよいかわからない

認知症の相談

- もの忘れが多くなってきたので、認知症が心配
- もの忘れが多く、「財布を盗んだ！」と疑われた
- 身だしなみを整えなくなり、お風呂を嫌がって入らなくなった
- 見えないものを見えると言っている
- 認知症専門病院の受診を勧めても怒って行かない

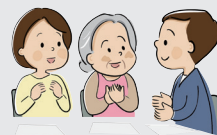
在宅医療・介護の相談

- 介護に疲れてきた
- 退院して在宅での生活に不安や心配がある
- 医療関係者と在宅介護関係者との連携をスムーズにしてほしい

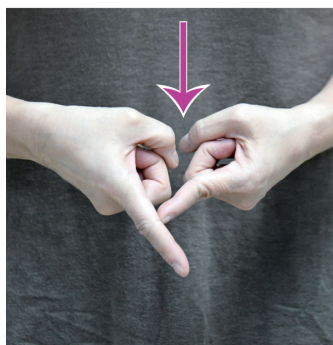


高齢者の権利の相談

- 家の中から、または施設で高齢者を怒鳴っているような声が聞こえる
- お金の管理に自信がなくなってきた
- 身寄りがないので、将来のお金の管理が心配



両手の手のひらを手前に向け、斜めに並べて立てる



両手人差し指の「入」の形を前に出しながら指先を前に向ける



第57回

「入学」

手話モデル 亀代 広美 さん
(赤平手話の会)